

旧村川別荘だより

平成 25 年 4 月 16 日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：辻、工藤、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました。

4月の月例会が開催されました。

春になりました。別れと出会いの季節であることを、今年も実感するこの時期です。

今月もどうぞよろしくお願いいたします。

花見と隅田公園そして我孫子

1 日本人と桜

『万葉集』4500首のうち植物を詠んだものは1500首ありますが、梅の約120首に対して桜は約40首と少ないです。これは、梅が7世紀頃に中国から輸入されたため、新しいモノが好きな奈良時代の貴族たちがこぞって梅を屋敷で栽培して楽しんだのに対し、この頃の桜は山中に自生する山桜であり、出会う機会が少なかったためと考えられます。その後の平安時代になると弘仁3(812)年、嵯峨天皇が日本初のサクラの花見である「花宴」を開催し、宮中の公式行事となりました。私達が慣れ親しんでいるソメイヨシノは江戸末期以降に江戸近郊の染井村(駒込)で産出された改良種です。

2 江戸の花見と隅田川

江戸幕府が開かれて間もない明暦3(1657)年に起こった「明暦の大火」により江戸のかなりの部分が焼失し、再開発が加速して隅田川左岸に江戸が拡大していきます(現在の両国から深川付近)。隅田川が洪水を起こさないように堤防が作られ、江戸中期の徳川吉宗のころに堤を保全するために桜を植えた、とされます。その結果、隅田川の堤は江戸後期には寛永寺や飛鳥山、愛宕山に並ぶ桜の名所として知られるようになります。

3 隅田公園の誕生

大正12(1923)年の関東大震災により、防災計画、都市計画の必要性が叫ばれ、帝都復興

院の総裁である後藤新平がパリ大改造計画を手本として「帝都復興計画」を練ります。当時の国家予算のおよそ2年分にも当たる30億円を集中投下し、私権を制限してまでも欧米最新の都市計画を実践することを目指すものでしたが、様々な抵抗に遭い、結局5億円の予算で事業を推進することになりました。ちなみに復興院の副総裁は我孫子に別荘(現:我孫子台マンション付近)をもった宮尾舜治が勤めました。この計画の成果としては以下のイ～ニが挙げられます。

成果イ)放射状道路(靖国通り=旧大正通り、昭和通り)と環状道路(明治通り等)からなる歩道と緑地帯をもった幅の広い道路が作られた。

成果ロ)区画整理と架橋=焼失した1100万坪の区画整理を実施し、隅田川の10橋は新大橋以外全て鋼製の橋に架け替えた。

成果ハ)難燃耐震構造の鉄筋コンクリート造りの小学校(復興小学校)(117校)と避難場所になる小公園(52カ所)をセットで新設。小学校区が地域防災の核であることに気づいたためと言われます。例)泰明小学校と数寄屋橋公園

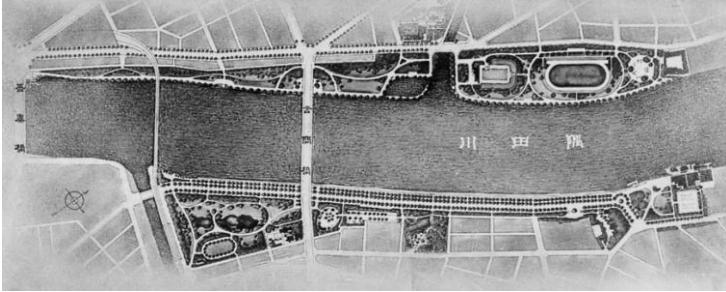
成果ニ)避難場所、延焼防止の空間地として震災復興公園を設置します。特に規模が大きいものを三大公園(隅田公園・浜町公園・錦糸公園)と呼んでいます。

隅田公園は堤防の桜、旧水戸藩邸の日本庭園を取り込んだ和洋折衷式で、現台東区側は陸上競技場やプールなどの運動施設も併設し、現墨田区側には大学のボート艇庫もありました。桜並木と合わせて、市民の身近なオアシスになりました。

ただ、戦後は首都高の用地として利用されて分

断され、川の水質の悪化や治水事業により親水性が失われました。1980年代から堤防の切り下げ、新桜橋の開通などで公園本来の魅力を取り戻しつつあります（下は隅田公園完成当初の図）。

4 そして我孫子



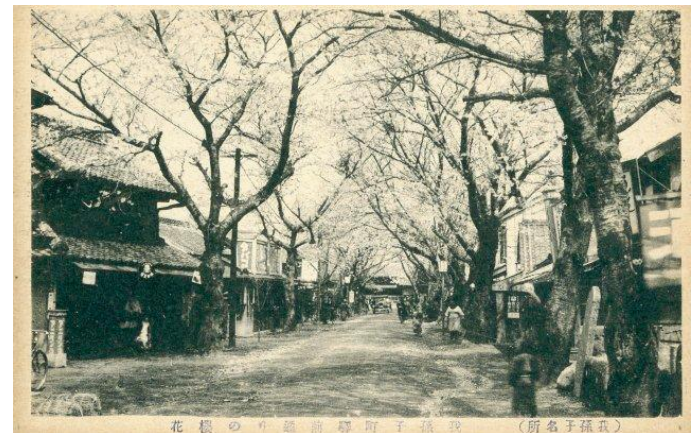
村川堅固は洋行帰りの明治39（1906）年から、目白台に転居する明治44（1911）年頃まで、後の隅田公園の北側（上の図の右上隅あたり）の隅田川河畔に住んでいました。（下の写真は明治40年に生まれた堅太郎を抱く家族、隅田川の向こう岸にある建物は帝大の艇庫。）

ここでは趣味の釣りを楽しんだようですが、洪水



の恐れがあるため、台地上の目白へと引っ越したそうです。その後大正6（1917）年に旧村川別荘の土地を購入しますが、師である嘉納治五郎が別荘をもっていたこと、手賀沼と遠く富士山を望む我孫子の景観に惹かれたからだと言われています。ところで、村川堅固が我孫子に別荘を持った頃、我孫子の駅前はどうだったかという、村川家が所蔵する「写真絵はがき」（右上）にあるように、駅をおりると桜並木がありました（現在の停車場線）。この桜並木はソメイヨシノで、明治の後期に住民によって植えられたものです。それに旧村川別荘の隣は桜

で名高い子ノ神大黒天です…。堅固は桜には言及していないようですが、桜で名高い隅田川畔に住まいを設けた堅固が桜の存在に気がつかない訳はありません。東京の拡大に伴って明治初めにあちこちに植えられたソメイヨシノ（寿命はだいたい50年くらいと言われていています）がもっとも成熟して花を咲かせた大正時代、堅固が我孫子に別荘を作るに当たって桜も意識したのではないのでしょうか？想像の域を出るものではありませんが、桜を愛でながらあれこれ考えてみることも、また楽しいものです。



船橋での交流会へどうぞ！

○千葉県観光ボランティアガイド連絡協会全体会議のご案内が来ました。奮ってご参加ください。参加希望の方は、文化・スポーツ課までご連絡ください。次回の月例会でもご案内いたします。

日時：25年5月17日（金）13時から

内容：市内観光と交流会

費用：交流会に参加の方のみ2,000円

交流会：16:40～18:00

3月の来荘者数

平成25年3月の来荘者数は1,112人でした！

ちなみに

平成24年3月 0人(工事期間のため)

平成23年3月 1,208人

平成22年3月 1,380 でした。

次回の月例会は・・・

次回の月例会は5月1日（水）9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

みずみずしい新緑の村川で、ぜひお会いしましょう！

旧村川別荘だより



平成 25年5月21日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：辻、工藤、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました。

5月の月例会が開催されました。

桜の季節も過ぎ、新緑が深くなっています。お散歩をするには心地よい季節になりました。

今月もどうぞよろしくをお願いします。

鎧飾りの季節にもなりました。兜を見ると5月を感じますね。



「東京に暮らす Living In Tokyo」を読む

○キャサリン・サムソン

Katharine Sansom (1883-1981) は、イギリスの外交官ジョージ・サムソン George Sansom (1883-1965) の妻です。ジョージは1904 (明治37) 年に来日し、『徒然草』の英訳を行うなど、日本研究者としても知られています。夫妻はイギリスで出会い、横浜で結婚。1939 (昭和14)年まで、約10年日本に滞在しました。1936 (昭和11)年に友人や親戚に日本の生活を伝えるため「東京に暮らす」を上梓。日本人の当時の暮らしぶりが、イギリス人外交官夫人の視点から描かれているとして興味深い資料です。

○使用人について

「彼らは自分たちも家族の一員であると思っており、特別な場合を除くといつでも主人の利益を優先させる」「冗談が大好き」

日本人は、海外における使用人の扱いとは異なることを述べています。忙しい中でも、日本人は用事を頼まれると自分の仕事を中断しても、主人の役に立てることへの喜びを感じていました。日本人の良い気質だと紹介されています。

○日本人と労働

「日本人は蜜蜂のような旺盛なエネルギーを持っ

ていると同時に、東洋人らしく全身の力を抜ききってしまうこともできます。」

当時の西洋文明の影響で、日本の中でも時間に追われる生活になりましたが、働く必要がない場合はのんびりしていました。電車内における日本人の居眠りも、当時の西洋人には驚いて見えたようです。学校に時計台が設置されるようになったのも、明治時代に入ってからであり、時間という概念が日本に浸透してきたことが窺えます。

○百貨店

「日本人は新しもの好きですが、百貨店は展示会や販売を行って、多くの人々を集めています。粋な扇子を持っていると褒められます。」

百貨店には、季節折々の素晴らしい品が扱われており、一般庶民もそれを購入し、おしゃれに使いこなしていました。

○日本人と旅

「日本人は国内を良く旅しますが、外国に行くことは稀です。それは、帰国後に日本の現状に適應できなくなるからです。それが原因で、日本の文化が外国で知られないのは残念です。」

日本人が現状に適應できなくなるのは、外国の自由さに触れた時だと考えられます。当時の日本と海外での生活のスタイル差が浮き彫りになる例です。

○日本人とイギリス人

ここでは共通項として、スポーツと文化をお互いの国で比較しながら取り上げています。

「日本のテニス選手は、勝っても負けても明るい笑顔で欧米の観客を魅了しています。」「日本の工芸は優れており、大量生産品が中心のイギリスは、日本文化との違いに愕然とします。」「日本とイギリスはお



互いに学ぶべきことが多くあります。」

お互いのことを知るために何ができるのか。それは今日的な問題でもあり、すぐに答えが出るものではありません。当時の日本人とイギリス人の関係から、現代に繋がることを少しでも感じることができましたでしょうか。当時の西洋人と日本人の考え方を読み解けるいい機会でした。ぜひ、お時間があれば読んでみてください。

連絡・意見交換など

●旧村川別荘周辺の花について

・キランソウ（蘭の一種）、キンラン、ツバキ（赤・白）、ジュウニヒトエ等、見頃を迎えました（写真にて紹介）。

●館山からの団体

・40名近い人数でしたが、Hさんの協力のもと、乗り切ることができました。良い経験となりました。

●お客様の見学意識の差異について

・団体もよいが、個人的には少人数で話を聞いてくれる方がよいと思います。
・団体になると興味がある人とそうでない人で差があるように感じます。

●三菱鉱業OB会の散策

・5月9日に会社のOB会で我孫子散策をします。
・ガイドに当たられる予定の染野さん、よろしくお願い致します。
・村川だけでなく、三谷別荘跡などもご案内し、当日のサプライズで会社の大先輩の別荘だったのだということを披露するつもりです。

●日立の庭園公開

・5月18日に行います。よろしかったらお出かけください。
・ボランティアも大歓迎です。



●景観散歩

・5月30日に忍城に行きます。
・参加希望の方は、早めにご連絡ください。

●北総歩こう会のイベント

・4月26日に行われました。

・かなりの団体で訪れましたが、ガイドさんがとてもよかったと評判上々でした。お当番だった方、ありがとうございました。

●千葉県観光ボランティアガイド協議会

「平成25年度総会及び第3回地域交流会の開催について」のお知らせを行いました（5月7日参加締切）。

ボランティアガイド協議会

5月17日（金）、船橋市商工会議所において、千葉県観光ボランティアガイド協議会平成25年度総会が行われました。議事は以下の通りです。

- (1) 役員及び規約一部改正
- (2) 平成24年度活動報告
- (3) 平成25年度取り組み案
- (4) 会費納入について
- (5) 各地区連絡会活動報告

以上の5点について説明があり、今年度から会費制導入の方針が可決されました。総会後は、船橋市ボランティアガイドの皆さんによる、街歩きが行われました。6月1日の月例会にてご報告いたします。

4月の来荘者数

平成25年4月の来荘者数は418人でした！
ちなみに…

平成24年4月 0人（工事期間のため）
平成23年4月 164人
平成22年4月 635人でした。

前任編集Tより

みなさま、お変わりなくお元気でしょうか。今もガイドの皆さんや村川の庭のことなど思い出しながら日々過ごしているTです。短い期間でしたが、皆さんにとっても優しくご指導頂き感謝しています。皆さんの元気なお姿を見に村川へ遊びに行きますね。

個性豊かな名ガイド、楽しみにしています^^

次回の月例会は・・・

次回の月例会は6月1日（土）9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

お天気が変わりやすい時期ですが、体調にはどうぞお気をつけ下さい。皆さまにお会いできるのを楽しみにしています。新任の編集Tがお送りしました。

旧村川別荘だより



平成 25年6月20日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
 歴史文化財担当：辻、工藤、田中
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 1684 番地
 TEL:04-7185-1583 (直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

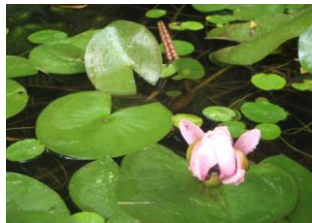
月例会が開催されました。

6月の月例会が開催されました。

梅雨の季節になり、旧村川別荘の池にある、蓮の花も咲きました。

写真はとある雨の日の一枚です。雨に濡れる花も、6月を感じさせます。

今月もどうぞよろしく
 お願いします。



百貨店の歴史

今月は、前回のお話に出てきました、百貨店の歴史についての解説でした。貴重な大変興味深いお話でした。^^

○百貨店前史

現在、全国各地にある百貨店ですが、その歴史は1877(明治10)年、上野公園での内国勸業博覧会に遡ります。殖産興業の見本市で売れ残った物品を、翌年に「物品陳列所」(勸工場)で販売したことが始まりです。勸工場は、庭園や茶屋、演舞なども実演され、1880(明治13)年以降、民営化され、爆発的に全国へ普及していきます。

1902(明治35)年、東京では浅草・京都・神田・日本橋などで27カ所。大阪では「勸商場」として6カ所以上が設けられました。

○勸工場の隆盛

「買う」だけではなく、「眺める」楽しみをも盛り込んだ勸工場は、土足可能方式へと姿を変え、



(上記写真は京橋・帝国博品館)

より今の百貨店に近い形をとっていくこととなりました。その後、勸工場は百貨店登場とともに、衰退していきます。

○百貨店の誕生と展開

1891(明治24)年、アメリカの商業学校で学んだ高橋義雄が三井呉服店へ入店し、西洋の百貨店へと改革をしていきます。その後、日比翁助による「デパートメント・ストア宣言」がなされ、白木屋、松坂屋なども陳列販売を促進していきます。

また、新たな顧客層の開拓として、皇族や華族といった上流階級とは異なる人々も百貨店へと足を運びました。大学教授や企業幹部、小説家など…我孫子にゆかりのある人物も百貨店を利用したのかもしれない。そのような「新中流階級」が登場し、新たな文化、芸術、消費社会の担い手となりました。

○建物や店内設備

明治期の日本西洋建築流行を表していた、ルネサンス様式を用いていた日本橋三越は1923(大正12)年の関東大震災を契機に大改装、増築部分は世界的に流行していたアールデコ様式となりました。白木屋や伊勢丹もアールデコ様式を取り入れていきました。伊勢丹には、昭和初めから戦後にかけて、スケートリンクが設けられていたそうで、百貨店の多様性に驚かされます。また、明治末期から昭和初期にかけて、エスカレーターやエレベーター、エアコン、食堂も創設され店内も充実していきました。

「今日は帝劇、明日は三越」のコピーは一世を風靡しました。

○ターミナルデパートへの展開

昭和初期になり、鉄道が整備されると、阪神・阪急をはじめとして、駅に直結したデパートを展開していくようになります。東京では、お馴染みの東急、東武、西武などが展開していきます。

今は、どこにでも見られるよ



うになった「エキナカ」も、原点は百貨店にあったと言えるでしょう。今もなお、進化を続ける百貨店。次回、お出かけになる際は、その歴史を感じとりながら歩いてみるのはいかがでしょうか。

連絡・意見交換など

●千葉県観光ボランティアガイド協議会について

- ・今の雰囲気が良いと思います。
- ・協議会に参加した中で、他の団体との違いを感じたことがあります。独自のスタイルでもよいと思います。
- ・県グループとは違う団体が村川なので、当時、入る必要はないと思った。情報収集だけにとどめてもよいのではないか。
- ・観光ボランティアと村川ガイドとは性格が異なるため、入らなくてもよいのではないか。
- ・入っていた方がよいという方の意見も聞いてみたいです。
- ・景観を守る会に庇護されて、私たちの活動は成り立っているので、それらも踏まえて考えていければよいのではないか。
- ・他の団体との付き合いは辞めた場合どうなるのか。
- ・我孫子には、ガイドクラブ、文化を守る会が一方にあるので、他団体を踏まえて立ち位置を考えてもよいと思います。
- ・予算への矛盾点、総会の持ち回り、役職を決めること等に難しさがあるのではないか。
- ・ガイドも様々ですが、村川の場合は、お客様を待ち受けるスタイルでよいと思います。

⇒皆さま、貴重なご意見をありがとうございました。今後、県や他団体の状況を踏まえて情報を収集し、次回月例会で報告したいと思います。

●市民フェスタのお知らせ

- ・今年も参加してよろしいですか（皆さん了解との見解）。6月6日（木）に説明会があります。

●旧井上家住宅について

- ・説明板でも十分わかりました。見やすくきれいでした。
- ・今後、ボランティアを募るのでしょうか。→まだ修理すべき箇所が多くあり、全面公開ではないため、現段階ではボランティアを募るということとは

検討しておりません。

●DVDについて

- ・来月の月例会で、DVD 観賞をしましょう。
- ・おひなまつりのDVD もとてもよく映っています。機会がありましたら是非見ましょう。

●6月月例会での参考本について

- ・「東京に暮らす Living In Tokyo」について、本をぜひお借りしたい。
- 私物に同様の本があるため、村川に置いて皆さんで貸出簿をつけながら読むのはいかがでしょうか。→是非そうしましょう。

5月の来荘者数

平成25年5月の来荘者数

は**456人**でした！

ちなみに…

平成24年5月484人

平成23年5月592人

平成22年5月366人でした。



隅田の花火

旧村川別荘に、紫陽花の花も色とりどりに咲いています。その中でも「隅田の花火」という品種の花が咲いておりました。



梅雨空の中、なかなか外には出づらいますが、小さな花を見つけに歩くのも、一つかもしれませんか。

新任編集Tより

早いもので、桜の季節から2カ月が経ちました。皆さんに温かく迎え入れて頂いて、貴重な時間を過ごさせてもらっています。村川のことをもっと勉強して、旧村川別荘を盛り上げていきたいと思ひます。改めまして、今後ともよろしくお願ひ致します。

次回の月例会は・・・

次回の月例会は7月1日（月）9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

梅雨はまだ続きますが、様々な虫の訪れが夏の到来を告げています。暑さも増してくるこの頃ですが、お身体には気を付けて下さい。来月の月例会では、DVD観賞を行います。皆さまにお会いできるのを楽しみにしています。（*_^*）

旧村川別荘だより

76

平成 25年 7月 24日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：辻、工藤、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました。

7月の月例会が開催されました。今年の梅雨は、通り雨のようにあっという間に過ぎ去ってしまいました。気づけば、夏本番です。

写真は風になびく風鈴です。音色を聴いて、少しでも涼やかに過ごしたいですね。今月もどうぞよろしくお願ひします。



DVD 観賞

今月は、2本のDVD 観賞を行いました。それぞれに雰囲気の良い内容だったと思います。

○ひなのまつり

こちらは、今年行われた「ひなのまつり」の様子をDVD化して頂いたものです。とってもよく映されており、BGMも合っていましたね。素敵でした。来年の「ひなのまつり」が楽しみです。



○歴史百景

2本目は、我孫子の歴史を紹介した番組「歴史百景」のDVDでした。我孫子の歴史を多方面から知る機会になりましたね。とても勉強になりました。



・割烹旅館「角松」

江戸時代、我孫子は水戸街道の第五の宿場町として賑わい、また本陣も置かれました。角松本店は、そんな我孫子宿の旅籠として創業されました。DVDでは、角松内部の庭園も紹



介されており、日本の昔ながらの風景を感じ取ることができました。

・子之神道標

道標は、街道の分岐点に建てられ、目的地までの方向や距離を示すものでした。当時の人々が、この石碑を目印に歩いたのかもしれませんが。



(角松本店内陪庭園)



子之神道標

・放浪画家、山下清

弥生軒が当時作っていた駅弁の掛け紙になった絵は山下清が描いたものです。



我孫子駅で売られていた駅弁の掛け紙

我孫子に滞在した山下清の人となりや残された絵も紹介されていました。

・旧村川別荘

番組の後半に入り、旧村川別荘の紹介もありました！母屋の内部の様子も映っていました。新館についても、「朝鮮風」と表現した村川堅固のこだわりが解説されていましたね。



・岡田武松 (1874～1956年)

日本の気象学者。日本海海戦の天気予報をしたことでも、有名な人物です。また、「台風」という、今では誰もが知っている気象用語も、岡田武松によって名づけられたとされています。編集Tも初めて知りました。我孫子に縁のある人物として、是非知っておきたいです。



岡田武松

以上、DVDの内容を抜粋させて頂きました。

「歴史百景」では、我孫子の様々な歴史を学ぶことができたと思います。これからも、我孫子のことをもっと知り、その風土を感じ取ることができたら嬉しいです。

連絡・意見交換など

●市民フェスタについて

- ・今年の日程は11月30日～12月1日です。
→7月25日に参加有無の提出があります。
- ・文化分科会について
→入った方がよい場所をとりやすい
- ・今年の新たな案を考えましょう。
- ・代表者名について
→昨年同様、吉澤さんに頼もうと思います(吉澤さん了解との旨)。連絡先として、矢野・板倉が窓口になります。
- ・参加会費500円について
→瀬戸さん管理の村川ガイドのお財布から出そうと思います。
→残金は3千円超あるので大丈夫です。
- ・去年はチラシが遅かったなので、早めに取りかかりましょう。

●県ボランティア協会に関して

- ・5月の総会后に、協会へ連絡をとりました。退会については、皆さんの総意で決めて下さって構わないとのことでした。協会の方から近いうちに通知がきます。
→来月の月例会で結論を出しましょう。

●映画上映会

- ・アビシルベにおいて「懐かしの映画上映会」(8月10～23日)
- ・小津安二郎監督作品他

●我孫子いろいろ八景のお知らせ

- ・旧村川別荘にも、投票用紙を置きますので、皆さま奮ってご応募下さい。
- ・是非、旧村川別荘にも入れましょう。
- ・場所はいくつ選べますか。
→一つのテーマにつき、8個選ぶことができます。

●6月月例会での参考本について

・「東京に暮らす Living In Tokyo」について、6月の月例会で話になったように、貸出簿を作りましたのでガイドの中で読みあいまし

よう。
・150年前の外交史の本が、図書館にあります。当時の日本と外国の対比を知識に入れておくと、ガイドをする際、活かせると思います。ぜひ、読んでみてください。

●お知らせ

・神戸の知り合いから、神戸の雑誌に我孫子と佐倉のことが取り上げられていると情報を頂きました。

6月の来荘者数

平成25年6月の来荘者数は408人でした！

ちなみに…

平成24年6月337人

平成23年6月694人

平成22年6月495人でした。



風鈴絵付け教室

旧村川別荘母屋において、8月15・16・17日(全日午前10時～正午)「風鈴絵付け教室」を行います。対象は小中学生となりますが、ご興味がある方がいらっしゃいましたら、ぜひ、見に来ていただければと思います。旧村川別荘の竹を眺めながら、涼やかな音色を聴いてみませんか？



竹灯籠の夕べ

今年は9月13・14日18時～20時を予定しております。今年は、金曜日・土曜日が開催日となります。今年もまた、皆様のご協力、よろしくお願い致します。



(昨年の様子)

次回の月例会は・・・

次回の月例会は8月1日(木)9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

梅雨が明け、今年の夏は長く続きそうな予感です。皆さま、熱中症には十分に気を付けて、暑い夏を乗り切りましょう。(^_^) /

平成 25年8月22日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：辻、工藤、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより

77

月例会が開催されました。

8月の月例会が開催されました。今月もどうぞよろしくお願ひします。

猛暑の夏がやってきましたね。毎日毎日、とろけてしまいそうです。写真は、夏の申し子「蝉」です。一生懸命鳴いています。蝉に負けないように、残り少ない夏を乗り切りましょう。(*^_^*)



論文購読

今月は、浅野伸子さんがお書きになった「明治後期から昭和期までの村川堅固邸及び別荘に関する調査研究」の論文を購読しました。以下、「我孫子の別荘」に関して抜粋して紹介します。

●我孫子の別荘

●別荘地の取得
堅固が手賀沼を望む土地を取得したのは、大正6(1917)年のことです。

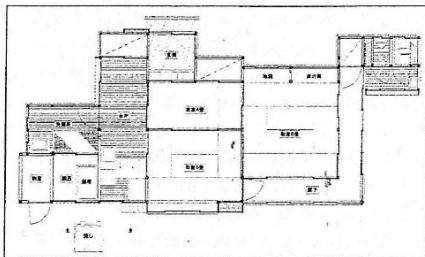


図 5-1 我孫子の母屋現状平面図 (山村映子作成)

別荘を持つ契機となったのは、恩師でもある嘉納治五郎が、明治末に我孫子へ別荘と農園を設けたことに起因しています。既にこの頃には、杉村楚人冠や柳宗悦、武者小路実篤、志賀直哉などが我孫子に居を構えており、文化人にとっても、我孫子が住み良い有数の土地であったということが改めて言えます。

●母屋の建築

大正10(1921)年には、我孫子宿本陣の離れであった家屋を買い取り、斜面を拓いて移築し、母屋が造られました。一見すると、農家風の建物ですが、移築する時点で堅固の好みと工夫で、



写真 5-1 移築後の我孫子母屋南面 (撮影年月日不明 村川家蔵)

別荘として住み良いように平面を変更した可能性があります。一方で、子どもであった堅太郎が初めて見た新築の住居であるのにも関わらず「古い汚い家だった」との印象を述べており、このことから、移築前の部材を出来る限り使用したものと考えられます。

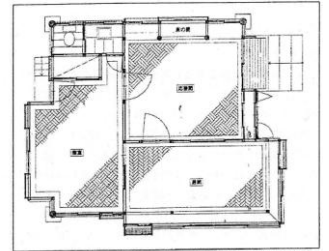


図 5-2 我孫子新館現状平面図 (玄関部分改造後・山村映子作成)

●新館と堅固

昭和3(1928)年新館が完成。南西の手賀沼に面する位置を居間とし、床はすべて寄木張り。台所はなく、ベッドを2台配置し、西洋風の造りとなりました。新館の建築にあたり、コンクリートを大量に使用し、基礎部分は頑強に造成しました。村川家の家計簿には「材木代」等、建築費は9000円ほどが記載されています。工期1年をかけた新館の施工は、鶴沼と同じ大工大沢儀作に頼み、堅固はこの棟梁と相談しながら造ったとされています。普請好きな堅固の集大成として、これが最後の建築となりました。

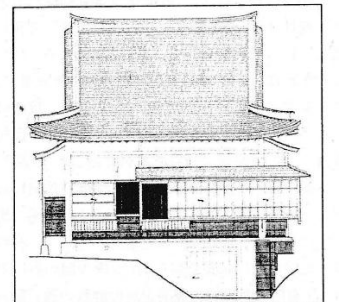


図 5-3 我孫子新館立面図 (西面現状・山村映子作成)

○最後に

村川堅固は36歳から51歳の16年間に、家を雑司ヶ谷、勝浦、我孫子、鶴沼の4カ所に造りました。どの家も、独特の雰囲気があります。



写真 3-2 雑司ヶ谷邸の庭での家族写真 (大正7年7月 村川家蔵)

勝浦は不明ですが、雑司ヶ谷は都市中流住宅の典型、我孫子の母屋は武士住宅風、

鵜沼の母屋は我孫子以上にモダンで近代的。最後に造った我孫子の新館は、より一層独創的なものでした。

このように家を造ることができたのは、家族の支えがあったからこそではないでしょうか。

家族を大切に、常によりよい住環境を実践していた堅固の姿勢は、現代の我々が学ぶ1つの要素かもしれません。

連絡・意見交換など

●市民フェスタについて

・8月29日に総会なので、それまでに展示方法や出し物について決めたいと思います。

→日誌に書いてもらうようにします。

・例えば、先月のDVDを上映する場合、許可が必要ですか？

→Jcomのものに関しては必要です。

→その他のDVDをアピスタで流すのはどうか。

・ガイドクラブとの連携、人を寄せるための展示が必要。

・道具展の延長をしてみても？（～12月2日までとか）

・例年通りに行い、ガイドクラブの方に案内役になってもらう。その際、参加者の多寡は気にせず、できることをするのがよいのではないかな。

・市内でも人が来ないのに、市外からのお客様を呼び込むことは難しいのでは？全体での動きがない中、他の団体に声をかけなくても良いのではないだろうか。

・呼ぶだけ、呼んでもいいのでは。

・そういったことで来訪者が来るならば、1つの機会だと思う。

・去年から市民フェスタの形態が変わり、「アピフェス」＝「我孫子市祭り」とはいうものの、参加団体は減少している感がある。結果的として、知り合い同士が多い状況となっている。その中でこういった方向性をもって行うのかを考えていかなければならない。

●我孫子いろいろ八景

・募集が少ないので、ぜひ応募してください。

・ご近所でよいと思った場所を写真撮影しましたので、応募します。

●県ボランティア協議会

・先月の月例会ののち、通知がきましたが、先々月の意見交換でお金や役員を出すという面で難しいということで、県ボランティア協議会からは辞退するという事によろしいですか。

→みなさま了解。

・今後、携わらないということではなく、情報共有という面で協力をしていきましょう。

●イベント告知

・ちょっと古い道具展示会（8月6日～10月27日）

・風鈴絵付け教室（8月15・16・17日午前中）

・竹灯籠の夕べ開催（9月13・14日 両日18～20時）

→今回は、灯籠の数を増やす予定です。

また土・日開催ではなく金・土開催となります。

7月の来荘者数

平成25年7月の来荘者数は170人でした！

ちなみに…

平成24年7月212人

平成23年7月229人

平成22年7月113人でした。



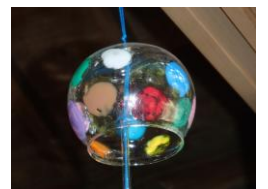
文化財展

旧村川別荘新館で、8月6日から「ちょっと古い道具展示会」を行っています。（10月27日まで）一昔前の懐かしい道具達が、顔を揃えて待っています。ぜひ、ご覧ください。



風鈴絵付け教室

8月15～17日に「風鈴絵付け教室」が行われました。総勢で51人の方に参加頂き、各々に素敵な風鈴が仕上がりました。涼しい音色とともに、ひと夏の思い出ができました。



次回の月例会は・・・

次回の月例会は9月1日（日）9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

気づけばもう立秋を迎え、暦の上では秋が到来しました。しかしながら、今年の残暑は厳しそうです。本格的な秋はいつやってくるのでしょうか。季節の推移を見守りたいと思います。

旧村川別荘だより 78

平成 25 年 9 月 4 日 発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
 歴史文化財担当：辻、工藤、田中
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 1684 番地
 TEL:04-7185-1583 (直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました。

9月の月例会が開催されました。今月もどうぞよろしくお願ひします。

田んぼでは稲刈りが始まりました。今年の中秋の名月は9月19日だそうです。まだ秋本番には遠いですが、体調には気を付けて過ごしていきましょう。

文化財展解説

今月は、8月6日から10月27日まで開催されております「ちょっと古い道具展示会」の各文化財の解説を行いました。道具達は存在するだけで歴史になりますね。

●真空管ラジオ

まず、ラジオには真空管ラジオ、鉱石ラジオ、トランジスタラジオがあります。今回展示してあるのは、真空管の



ものです。昭和30年代末には、急速に姿を消していく真空管ラジオですが、テレビが普及したことと同様に、当時の人々に大きな影響を与えたことは言うまでもありません（今回展示のものは、今でも使用可能です）。

●16ミリ映写機

大正時代以降、映画が娯楽として親しまれるようになりますが、学校や公民館などでは、当時映画館で使用された35ミリ映写機は重く、主に16ミリ映写機が使用されました。戦後には衰退していきます。



●SPレコード、蓄音機

SPレコードは、片面の記録時間が5分ととても短いものでした。その後、LPレコードが発明され、記録媒体も優れたものへ進化していきました。



今聞く音源も原点はこのSPレコードにあったと言えるかもしれません。

●貨幣と紙幣

お金は、戦中と戦後では大きくその描かれる内容が異なってきます。これは、戦争の影響が大きいためと考えられます。右下にあるように、梅などの絵は、平和、



そして自由の象徴として描かれています。当時のお金を見れば、その時代背景がわかるというのも、歴史を学ぶ上で一つの方法と言えるのではないのでしょうか。

●ミシン

今年に入って寄贈を受けたのが、「シンガーのミシン」です。シンガー製ミシンは、製造番号が1つ1つついていて、



それを調べれば、製造年代がわかります。今回展示しているものは、1929年イギリスはスコットランド、クライドバンク工場という所で製造されたものです。はるか遠いイギリスからやってきたミシン…長旅にも負けず、今なお使用できるミシンとして、貴重なものと言えるでしょう。

…このようにちょっと古い道具達を見て、昔に思いを馳せてみるのはいかがですか？何か新しい発見があるかもしれません。



連絡・意見交換など

●旧村川別荘庭園だよりについて

- ・旧村川別荘にある植物や生物について、ガイドの皆さんと共有し、ガイドをする際の役に立てたい。
- ・定期的発行ということではなく、できる時に月例会で発行していく。

→編集委員等、やりたい方はぜひ申し出て下さい。

・季節に応じた俳句や短歌なども随時募集して、月例会の場で発表すること等を今後していきたい。皆さんいかがでしょうか。

→了解です。

・また植物に限らずガイドの皆さんが行かれた場所やお勧めなど、ガイドの参考になりそうなことがあればぜひ、月例会の場で紹介や回覧などしていければと思います。

●旧村川別荘だよりについて

・おたよりは、見て非常に参考になります。バックナンバーは置いてありますか？

→新館に置いてあります。

●写真撮影の可否

・展示会の写真は撮ってもよいですか？

→大丈夫です。

●団体予約について

・15～16人来られるという場合（団体予約）は申し込みが必要ですか？

・先日も同様なことがあり、突然の来訪で驚きました。

→わかった段階で、一度教育委員会へ電話を頂きたいです。また、その団体さんから教育委員会へ予約電話を入れてもらうように伝えて頂ければと思います。それを踏まえて、当日シフトの方へ連絡をとりたいと思います。シフト変更が、生じている場合もありますので、団体の方の予約、または団体に対してのガイドが必要である場合など、一報を下さい。

・大型バスで来られる場合は？

→基本的には、水の館か鳥の博物館に止めてもらうこととなります。

●分電盤について

・分電盤について、当時からあるものなのか気になった方がいました。

●あびフェスについて

・8月29日（木）に第2回連絡協議会が行われました（矢野さん、板倉さん参加）。

→キャッチフレーズが決まりました。後日お知らせします。

・予定として、アピスタでひなのまつりと旧村川別荘についてのDVDを流してもらうということでどうでしょう。また、当日も含め、アイデアが浮かびましたら、日誌に書いて下さい。

・キックオフプレフォーラムが9月8日15時からあります。あびフェスに参加する方々との交流会です。参加ご希望の方はお知らせ下さい。

●我孫子いろいろ八景

多数のご応募ありがとうございました。

●竹灯籠のタベ

・9月13・14日で開催します。今年は、金曜日と土曜日で開催します。

・シフトなど、後日郵送で当日のスタッフを募ります。ご協力よろしくお願ひします。

8月の来荘者数

平成25年8月の来荘者数は272人でした！

ちなみに…

平成24年8月 96人

平成23年8月190人

平成22年8月196人でした。

竹灯籠のタベ

今年で7回目となります「竹灯籠のタベ」を開催します。今年は、約600本の竹灯籠と、大正・昭和初期の映像や音楽をお楽しみいただき、幻想的な空間を演出します。どうぞ、皆さん足をお運びください。



文化財基金結果

7月に旧村川別荘の文化財基金集計を行いました。

結果総金額は、「19,806円」でした。皆様のご協力、ありがとうございました。



今年は大きな募金箱です。今年度もまた、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

次回の月例会は・・・

次回の月例会は10月1日（火）9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

季節は巡り、もう秋本番に突入します。紅葉の秋、食欲の秋、運動の秋…皆さんは、どんな「秋」を想像されますか？お散歩がてらに、小さな秋を見つけてみてはいかがでしょうか(*^_^*)

旧村川別荘だより

79



平成 25 年 10 月 18 日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：辻、工藤、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました

10月の月例会が開催されました。今月もどうぞよろしくお願ひします。先日、伊勢神宮の遷宮も行われ、今年は出雲大社とともに、「遷宮」が注目されました。一般的に今月は旧暦で「神無月」ですが、出雲地方では、全国から神様が集まる「神在月」の期間を迎えています。

季節外れの暑さも続き、神様も驚いているかもしれませんね。



杉村楚人冠記念館夏期企画展の解説

今月は、7月17日から10月6日まで開催されていました企画展「新聞記者・楚人冠の足跡」を杉村楚人冠記念館の学芸員より、解説をいたしました。杉村楚人冠がどういった人物で、その記者としての才能などが、みなさんに少しでも伝わったのであればよいと思います。

●渾身のルポ 雪の凶作地

明治39(1906)年1月、東北地方は記録的な飢饉に苦しんでいました。

そんな中、東北に赴いた楚人冠は、自身初めてとなるルポタージュを書きます。取材の途中、主筆からの手紙には「救恤会本部に約十萬金を集むるに与りて力あり」とあり、楚人冠の書いたルポが反響を呼び、「義援金」につながったことが読み取れます。



●海外にも足跡を残した楚人冠

豊富な国際経験を持ち、海外のジャーナリストとも交流が深かったことから、国際的な評価も高かった楚人冠。明治40(1907)年、イギリスへの特派では、社長ノースクリフ卿

の依頼で『デーリー・メール』紙上に7回の寄稿を載せました。内容は、日本人から見たイギリスを書くというもので、イギリスの新聞であるにも関わらず日本語が見出しになりました。これは、当時日英同盟が結ばれ、両国がお互いに興味関心を持ち合わせていたためと考えられます。この記事の寄稿により、楚人冠は国際的にも飛躍、経験を積んでいくこととなります。

●新聞と文学の接近～印象主義～

夏目漱石と楚人冠には強いつながりがありました。漱石は、明治40(1907)年に東京朝日新聞社に入り、楚人冠の同僚となりました。明治43(1910)年には、漱石は自分が担当する文芸欄に記事を書くように楚人冠を誘う、といった出来事もありました。

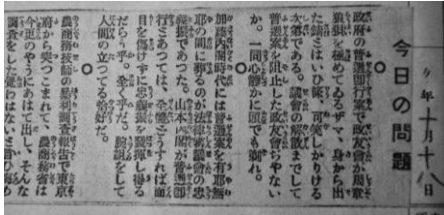
楚人冠は、印象主義を新聞と文学の接近と捉えていましたが、漱石もそれを感じ取り、楚人冠の記事を褒めた書簡が現在も残されています。

●人を語るコラム「東人西人」

『東京朝日新聞』のコラム「東人西人」は、大正2(1913)年、楚人冠が始めたものでした。(これに先駆けるものとして、日露戦争の直前、明治37(1904)年、大阪で発行される紙面にのみ掲載されたのが、「天声人語」であり、終戦後、「天声人語」と統一されました。) そのコラム名には、人間味ある話題を扱っていたところに由来があると考えられます。

●批評精神の神髄～「今日の問題」

夕刊のコラムであった「今日の問題」は、鋭い批評を皮肉な物言いで包んだスタイルで、他にはないものとして、評価されていました。これは、当時の大正デ



(画像提供: 杉村楚人冠記念館)

モクラシーの風潮と相まって、その筆致が注目されていたと考えられます。



今回の解説で、国際的にも国内的にも、新聞記者として、「人」を伝えることにこだわった、楚人冠の思いが少しでも伝われば幸いです。現代になり、「天声人語」などのコラムも定着していますが、その基礎を築いた一人が、楚人冠だと思えば、新聞を読む目も変わってくるのではないのでしょうか。

連絡・意見交換など

●庭園だより紹介

秋になり様々な植物や生物がたくさん出てきました。少し外を散策してみるのもいいですね。

●文京ふるさと歴史館チケットについて

→ガイドの皆さんの中で共有してください。

●我孫子市民フェスタについて

- ・キックオフミーティング報告
- ・文化分科会の参加団体は11団体です。
- ・詳細は企画書で確認をしてください。
- ・10月10日に会議があり、そこで場所が決まるため、会場が決まり次第、展示ケースを含めてどういった展示が可能か、考えましょう。
- ・松戸、野田のガイドと交流会はいかがでしょう。→限られた人になるため、別に考えましょう。
- ・オーディオクラブとSP盤レコードを流そうという企画があります。市民フェスタとは別ですが、フェスタ両日の14:30～15:30で考えています。
- ・お客様を連れてくる時間帯は？
→14:30に合わせる形として、13時にアピスタを出発というのはどうでしょうか。
→そうしましょう。
- ・「ちょっと古い道具展示会」の会期を延長します。

●修繕について

- ・新館の出窓（折れ戸）の修繕は早急に行った方がいいのではないか。
→業者に見せています。

●竹灯籠の夕べについて

- ・来荘者数は何人だったか？
→今年は564人の方に来ていただきました。

●出前講座について

- ・12月5日（木）9:30～12:30に中央学院大学で、福嶋元我孫子市長による出前講座が行われます。ご興味のある方は声をかけてください。

9月の来荘者数

平成25年9月の来荘者数は**866人**でした！
竹灯籠の効果もあったかと思えます。嬉しいですね。
平成24年9月 774人
平成23年9月 1023人
平成22年9月 913人でした。



「竹灯籠の夕べ」のご報告

9月13・14日に「竹灯籠の夕べ」を開催しました。当日はお天気にも恵まれ、約650本の竹灯籠と、昭和の映像や音楽をお楽しみいただきました。



両日で総勢500人を超えるお客様にご来荘していただき、竹灯籠による幻想的な空間を体感すると同時に、旧村川別荘

の雰囲気も、同時に感じられたかと思えます。

また、両日も新館において、SP盤レコードを聴く鑑



賞会も行われ、レコードを見たことがない子どもたちが興味津々でのぞき込むよ

うに聞き入っていました。皆様のご協力、本当にありがとうございました。＼(*^_^*)／

ガイド研修

今年は、栃木県益子市に行くことになりました。日程は12月6日（金）です。当日は、益子参考館などを巡る予定です。交通手段は、今のところ、車で行こうと考えています。時間など、詳しくは、11月の月例会でお話したいと思います。

次回の月例会は・・・

次回の月例会は11月1日（金）9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

だんだんと紅葉が深まる秋の旧村川別荘で、皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。



旧村川別荘だより

平成25年11月8日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
歴史文化財担当：辻、工藤、田中
〒270-1166
我孫子市我孫子1684番地
TEL:04-7185-1583(直通)
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました

11月の月例会が開催されました。朝晩の冷え込みが冬を思わせる今日この頃です。ガイドのみなさまにおかれましては、風邪などどうぞ召されませんように……。今月もよろしくお祈りします。

レコードの歴史

今月は、12月1日まで会期を延長した「ちょっと古い道具展示会」より、レコードの歴史についてお話しします。

●レコードの誕生前夜

1857年、フランス人 エドワード・レオン・スコットが「フォノグラフ」という、音声を波形として記録する装置（ススを塗った紙に記録）を作成しました。音を再生することはできませんでした。1876年、グラハム・ベルがこれをもとに音を波形にして電気信号に変換し、「電話」を発明しました。

●レコードの誕生

1877(M10)年12月6日、発明王エジソンがフォノグラフという装置を発明しました。これは、直径8センチの真鍮の円筒にスズ箔を張り、音を溝（縦振動）として記録し、逆に記録した溝に針をあてて動かして、音を再生可能とするものでした。しかし、この「円筒形レコード」は構造的に原盤の複製が難しいという問題がありました。

日本では1878(M11)年早くも東大で実験され「ホノグラフ、蘇言機、蘇音器、写話器械、蘇定器」などとして紹介されるなど、文明開化期の日本には新しい発明がタイムラグなく入っています。1887(M20)年にはベル研究所のチチェスター・ベルが円筒形レコー



ドを蠟引きのボール紙に改良、グラフォフォンとして販売、1888(M21)年には早くも日本上陸し、「蓄音機」と命名され、鹿鳴館で視聴会が開かれました。

1887(M20)年、エミール・ベルリナーが音を「円盤形レコード」に溝（横振動）として記録する機械を発明し、グラモフォンと命名しました。グラモフォンは原盤の複製が容易であり、1889年



にベルリンで行われたフォノグラフとの比較実験の結果、音質的にもグラモフォンが優れていることが実証されました。

●レコードの発展

1901(M34)年、ビクター・トーキング・マシン社、1906(M39)年、コロンビア・グラフォフォン社という、2大レコードメーカーが出揃い、円盤形レコードが業界標準化します。ばらばらだった回転数も1分間78回転が標準になり、酸化アルミニウム粉末をシェラック（カイガラムシの樹脂）で固めたレコードが使用されました。この時期のレコードは、重く、壊れやすく、レコード針（鋼・竹・サボテン針などを使用）を頻繁に交換する必要がありました。録音時間は10インチ（約25センチ）盤で3分、12インチ（約30センチ）盤で5分しかなく、長い曲は何枚にも及びました。「アルバム」の語源はここにあります。1920年代まではラッパに直接吹き込むアコースティック録音（ラッパ録音）が主、それ以降はマイクを利用した電気録音となり、1930年代に真空管を使用して針の振動を電気信号化して増幅、スピーカーを鳴らす「電気式蓄音機」（電蓄）が登場、繁華街のカフェやキャバレーなどでは必需品と言われました。



1940年代になると、ポリ塩化ビニール製レコードが登場し、丈夫で収録時間をのばすことが可能になりました。1分間に33と1/3回転で片面約30分というLong Playingができることから「LP盤」と呼ばれるようになり、それまでのレコードをStandard Playing「SP盤」と呼ぶようになります。LPの録音時間には世界的名指揮者のトスカニーニの強い希望があったと伝えられます。

戦後の1958(S33)年にはステレオ録音盤誕生、トランジスタを使用したアンプの採用とともに音楽メディアの主流となります。

● レコードの衰退と転化

1970年代後半以降、フィリップス社とソニーによるコンパクトディスク(CD)の開発と普及によりレコードは次第に音楽メディアから衰退していきます。ところが昨今では若者が集う「クラブ」のディスクジョッキーなどがレコードを使用した演出を行い、「古くて新しいメディア」として注目されています。

● 余話

旧村川別荘新館が建った当時、レコード1枚は1円20銭、蓄音機(普及版)は60円～70円、新聞1ヶ月は1円、ラジオ(4球式)は60円、カルモチン(睡眠剤＝太宰治や芥川龍之介が自殺に使用!30錠)で90銭、白米(3等、1斗=1.4キロ)が45銭、日本酒(2等、1升)が1円80銭、そして村川別荘新館が7000円ほどだったといわれています。物価変動が著しいので何とも言えませんが、レコード1枚3000円くらい(日本酒を基準!)でしょうか?

ご紹介したSPレコードですが、11月30日(土)と12月1日(日)の午後2時30分～3時30分に、我孫子オーディオクラブさんとの共催で「旧村川別荘SPレコード鑑賞会」で聴くことができます。当日はファンクラブの手動式蓄音器を新館で鳴らし、なつかしい音色を楽しめます。お楽しみに!

連絡・意見交換など

● ガイド冬時間の設定

冬期は朝夕が寒いので来荘者も少なく、特に日が落ちるのが早い今頃は夕方3時半過ぎはほとんど来荘者がいないため、ガイド時間を短縮してはどうか、という提案がありました。話し合いの結果、11月

から2月中旬(「ひなのまつり」が開かれる)までは、午前午後をそれぞれ30分ずつ短縮し、午前9時半から午後3時半までとする「冬時間」を設定することとなりました。

● 景観散歩のご案内

11月26日(火)に栃木県さくら市喜連川地区に行きます。ご希望の方は吉沢さんに参加申し込みしてください。

● 我孫子市民フェスタについて

11月30日(土)・12月1日(日)と12時から13時にアビスタでミニ講演会があります。内容は旧村川別荘のガイド活動とイベント(竹灯籠のタベ、ひなのまつり)についてのDVD上映と口頭でのレクチャーです。講演会終了後、ガイドクラブにお願いをした旧村川別荘までのガイドツアーがあり、2時半ころ旧村川別荘に到着予定です。到着後はお茶の接待と、「SPレコード鑑賞会」を楽しむという次第です。

● 出前講座のお誘い

12月5日(木)の9時半から12時半まで、中央学院大学にて福嶋元市長による出前講座が行われます。興味のある方は染野さんまで。

● 資料配布

佐久間さんから旧村川別荘の植物・生物ガイド資料、日比野さんから我孫子の地名の起源についてのガイド資料が配布されました。

10月の来荘者数

平成25年10月の来荘者数は**340人**でした!

平成24年10月 266人

平成23年10月 553人

平成22年10月 639人でした。

ガイド研修&次回の月例会

今年は、市外研修として栃木県益子町行きが決定!日程は12月6日(金)で、12月の月例会と兼ねます。ご出席の方は11月15日までにご連絡ください。お待ちしております。

★★12月1日に月例会はありませんので、ご注意ください★★



旧村川別荘だより

平成25年12月17日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：辻、工藤、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp



栃木県益子町に行きました！



8時過ぎに、教育委員会に集合！みなさん、大きな遅れもなく時間どおりに出発することができました。

ご協力ありがとうございました！(^_^)

今回は16名の参加となり、大変にぎやかな月例会となりました。また、例年の市外研修の中では、初めての遠出研修となるそうで、みなさんの楽しみも倍増していました♪

車で走ること2時間半(当初の予定とずれてしまい、すみませんでした…)、市外研修の1ヶ所目は、益子参考館です。



今回、現地で益子観光ボランティアガイドの方々にご協力、ご案内をいただきながら、

参考館内を巡りました。ご協力いただいた磯部さんは明るい方で、私たちも気持ちよくお話を聞きながら、質問しやすい環境を提供して下さったと思います。温かい対応に感謝ですね\(^o^)/

参考館とは、日本を代表する陶芸家・濱田庄司が、蒐集した陶磁器、漆器、木工、金工、家具、染織その他の工芸品を展示・公開するために、自邸の一

部を活用するかたちで1977年4月に開館しました。開館して既に30年以上経っていますが「とても広くて立派な施設だな」と月並みではありますが、感想を持ちました。ガイドさんによると、先の東日本大震災においても、被害は要所に出たものの、その後の善意



ある寄附などの動きにより、元の姿を維持しているそうです。人々の思いがたくさ

ん詰まった施設ですね。^^

写真の椅子は、旧村川別荘にあります三角椅子と同じ、バーナード・リーチがデザインしたものです。テーブルもかわいらしいです♪椅子とテーブルが一緒になっているだけで、雰囲気は違いますね～！旧村川別荘にある椅子も、負けないくらいとても素敵な椅子ですが、益子にもあると思うと、自然に親近感が沸きました。(*^_^*)

ちなみに濱田庄司が「参考館」と名づけたのは、自身が参考としたものを、工芸家はもとより、一般の方々にも広く知ってもらい、「参考」にしてほしいという思いからだそうです。

館内は、1号館を皮切りに、2～4号館も順に見ていくと、4号館の大きさに圧



倒されました。写真にあります4号館は「上ん台」と呼ばれる濱田庄司の別邸を展示棟として公開活用している施設です。こちらでは、家具や食器類などの蒐集品を展示しています。中には、喫茶スペースもありました。タイムスリップしたような空間で、



一時を過ごすことができたような気がします…。詳しく話を聞いてみますと、こちらは、1942年に隣町か

ら移築した母屋で、濱田庄司もお気に入りの建築だったそうです。中にある柱の大きさは圧巻でした。



濱田の蒐集は、自分の作品が負けたと感じたときの記念として、購入し蒐集した諸品だそうです。これらは、濱田の眼を楽しませ、刺激して制作の糧となったものでした。

編集Tも、濱田庄司について、正直あまり知りませんでしたので、実際に現地を見るという経験を通して、少しでも濱田庄司のことをはじめ、陶芸のことがわかったのかなと思います。

さて、次に案内をいただいたのは、参考館にほど近い、「つかもと」という登り窯見学やレストホールが一体となった施設です。

12時を回ると、職人さんたちはお昼休憩に入られるそうなのですが、今回は、時間外にもかかわらず、特別にその陶器作りを見させていただきました！みなさん、食い入るようにガラス越しにのぞいていらっしゃいましたね。でもロクロを回しているその姿は、まさに職人！そして周りの人を惹きつけていました。



ひたむきなその姿を見ると、一つ一つの作品に込められた思いがわかるような気がしました。



窯元を見学させていただいた「つかもと」で食事をとり終えたのち、次は自由時間！



みなさん、思い思いの場所を散策なさって、益子のお土産をご購入していらっしゃいました。多種多様な陶器が、所狭しと並んでいましたね。

自由時間を楽しんだのち、本日最後の見学場所となる「外池酒造」へ向かいました♪



外池酒造は創業70年を数える老舗の酒造です。見学は、全体をとおしてなるほどと思うところが多くあって、勉強になりましたし、楽しかったですね。

楽しみにしていた研修も、気づけば早いもの。酒造見学ののち、休憩を挿みつつ、17時半過ぎには教育委員会に到着。解散となりました。

お天気もよく、1日を通してきっと有意義な研修になったことと思います。

いろいろと至らないところもありましたが、ご参加いただいたみなさま、本当にありがとうございました。

いろいろと至らないところもありましたが、ご参加いただいたみなさま、本当にありがとうございました。

次回の月例会は・・・

平成26年1月8日(水) 旧村川別荘新館にて行います。いつもと日程が異なります。ご注意ください。

気づけば年の瀬です。今年の冬は、例年より厳しい寒さが続くそうです。風邪も流行っているようですので、十分にお気をつけください。

改めて、今年は大変お世話になりました。みなさま、よい年末をお過ごしください。そして来年も、どうぞよろしくお願いたします。(*_*)

旧村川別荘だより



平成26年1月24日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
歴史文化財担当：辻、工藤、田中
〒270-1166
我孫子市我孫子1684番地
TEL:04-7185-1583（直通）
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました。

あけましておめでとうございます。本年も、どうぞよろしくお願いたします。（*^_^*）

年が明けて、寒い日が続きますね。先日、二十四節気の大寒も過ぎました。暦上では、春が近づいているようです。

杉村楚人冠記念館冬期企画展の解説

今月は、昨年10月12日から今年の1月13日まで開催されていきました企画展「みんなで育てた我孫子の学校」を解説いたしました。我孫子の小学校ならではの特徴を、その歩みとともに学べる機会となりました。

●我孫子の学校のはじまり

・杉山英

江戸時代に宿場町として栄えた我孫子には、寺子屋「杉山塾」がありました。そこで教鞭をとっていた杉山英は、その後、我孫子小学校（以下、一小）の教師として、血脇守之助などを育てました。血脇守之助は、現東京医科歯科大学の創立者として知られ、師匠である杉山英の老後を心配し、他の教え子たちとともに基金運動に力を注ぎました。杉山英の人望の厚さがわかります。

●校長千浜宗一郎と楚人冠

千浜は、昭和2（1937）年31歳で一小の校長として着任し、子どもの興味によって授業内容を変えろといった新しい教育法で、教員の研究熱を掻き立てました。その結果、千浜は満州国視察を命じられ、その記念として、この太鼓を作りました。



（我孫子第一小学校蔵）

この太鼓は、授業始業と終了を鳴らしたと言います。現在も、運動会などで使用されています。

しかしながら、その活躍が盛んな折、研修で手賀

沼を舟で移動中に転覆事故に遭い、千浜をはじめとする教員や児童が18人亡くなりました。その事故は、戦争中の訃報でありながらも、連日にわたる葬儀や合同慰霊祭が行われ、その悲しみを町全体で悼みました。

●みんなで育てた我孫子の学校

・柳宗悦、志賀直哉

一小の卒業式に柳と志賀が列席し、成績優秀者に『漢和大事典』を渡しました。その辞書にある署名は、本人のものではないようですが、白樺派の文人と我孫子に住む人たちの交流はあまりなかったと言われている中で、貴重な資料と言えるでしょう。

・杉村楚人冠

楚人冠は、別荘を持っていた人たちや血脇らと、手賀沼の景観保護活動を行っていました。一方で、青年たちがあやめを植えて我孫子の景観を良くしようという活動も支援していました。その際、一小の先生が生徒を連れて参加しています。楚人冠をはじめ、先生や生徒、青年たちが我孫子の景観を守るために、活動したことが窺えるエピソードですね。

・嘉納治五郎

嘉納は、我孫子駅長や千浜、楚人冠らと親しく付き合い、我孫子をよりよくしようと貢献してきました。その彼が書いた書が、今も一小の体育館と昇降口に飾られています。

その他にも、一小で陶芸を教えた河村蜻山や一小のPTA活動に多大なる貢献した坂西志保など、我孫子第一小学校は、このような先人たちによって基礎が築かれました。



河村蜻山壺（我孫子市蔵）

そして、小学校の先生たちも、積極的にその教えを学び、教育に活かしていったのです。

現在は、「ふるさとカリキュラム」という

市内の小中学生向け地域学習の授業が行われています。郷土の先人を通じ、市内小中学生が我孫子の歴史を学ぶというものです。このように、我孫子の先人たちの思いは、現代にも受け継がれているのです。

これを機に、ご自身の出身小学校の歴史などを、調べてみてはいかがでしょうか。もしかしたら意外な人物が関わっているかもしれませんね。^^

連絡・意見交換など

●千葉県北西部地区文化財発表会のご案内

2月1日(土)八千代市総合生涯学習プラザで、千葉県北西部地区文化財担当者による発表会があります。

●庭園だより紹介

冬に入り、植物や生物がいろいろな顔を見せています。この寒い季節ならではの表情を観察してみるのもよいかもしれません。

●我孫子いろいろ八景発表会

- ・この度、第10回景観づくりシンポジウムとして、「いろいろ八景<其の二>発表会コンサート」を行います。
- ・全席自由席で1000円です。ぜひ、お時間ある方はお申込みください。

●来荘者の実態把握について

・旧村川別荘は、市指定文化財となっているため、来荘者の属性の把握により務めるべきではないか。どんな方がご来荘しているのか。一年間把握していれば、もっと来荘者の傾向がつかめるのではないか。今後の指標、方針に、活用していくことだと思ふ。

→来荘者のアンケート統計は、5～6年前から集計をしていますが、回収率が落ちているのもまた事実です。今後も、これらを一層活用して、傾向把握に務め、旧村川別荘の運営に活かしていきたいと思ふ。

・回収率に関しては、全体の方の2割程度ではないか。来荘者の方が、お書きにならない場合でも、ガイドの方でわかることがあったら、記載するように心がけている。

・傾向が統計によってわかるのならば、それをぜひ、旧村川別荘の企画などに活かしていただ

きたい。文化財は、保存するだけでなく、その活用も大切であると思ふ。

・来荘者のアンケート用紙は、住所記載欄があるが、あれはもう必要がないのではないか。DMを送るということでもなければ、内容を改訂した方がよいのではないか。

→今後、内容を確認して改訂していきます。また、来荘者の傾向なども、ガイドの皆さんにフィードバックしていけたらと思ふ。

●杉村楚人冠記念館テーマ展について

・1月15日(水)～3月2日(日)まで、テーマ展「昔のてがみ展」が開催中です。

→南方熊楠、柳田国男、土井晩翠らが楚人冠に送った手紙を公開します。また、大逆事件時の針文字書簡を3年ぶりに公開します。

・テーマ展開催中は、毎週ギャラリートークを開催します。お時間がある方はぜひ、お越しください。

「ひなのまつり」ご案内

今年も「ひなのまつり」を開催いたします。

日程は **2月18日(火)～3月9日(日)** です。

2月17日(月)に準備、3月10日(月)に撤収を行いたいと思ふ。日程にご都合がつく方がいらっしゃればお手伝いいただけたらと思ふ。また今回は、「ひなのまつり」開催前に、イベントを企画しました。

①「おひなさまを作ろう！」
2月8日(土)午前、2月11日(火)・祝午前、午後…計3回

②「ひな手縫い教室」
2月8日(土)午後、2月12日(水)午後…計2回



場所は母屋です。もし、お時間が合えば、見に来ていただけたらと思ふ。＼(^o^)/

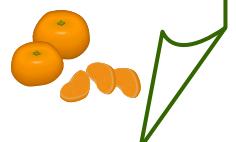
次回の月例会は・・・

平成26年2月7日(金) 旧村川別荘新館で行います。いつもと日程が異なります。ご注意ください。

1月に入り、寒さが一段と厳しくなりました。

最近、風邪も流行っています。

くれぐれも、お身体には気を付けてお過ごしくださいね。(^_^)/



平成 26年 2月 21日 発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：辻、工藤、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより



83

月例会が開催されました

2月の月例会が開催されました。今月もどうぞよろしくお願いいたします。今月はまれにみる、雪の多さでしたね。みなさま、いかがお過ごしでしたか？写真は、近所で撮影した雪だるまです。さらなる雪で、顔は隠れていますが、かわいい雪だるまでした。本当に大雪だったんだなあ、実感させられます。ソチ五輪の結果も、連日気になりますが、また来るかもしれない大雪にも備えたいものです。



杉村楚人冠記念館テーマ展の解説

今月は、1月15日から3月2日まで開催されているテーマ展「昔のてがみ展」を杉村楚人冠記念館の学芸員より、解説をいたしました。

●絵葉書の世界

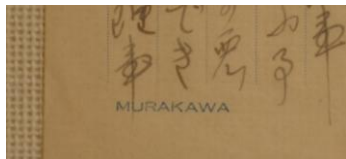
観光地での記念品として、絵葉書は見る機会が多いですが、その発祥は明治時代までさかのぼります。楚人冠も、ヨーロッパ特派の際にドイツ・ケルンから自宅へ手紙を送っています。

また、土井晩翠が家族にあてた絵葉書も、大阪城の千貫櫓、多門櫓が描かれていました。

家族に向けて現在地を知らせ、そして自分自身にとっても、記念となった「絵葉書」。当時から絵葉書は、今と変わらぬ姿を残していたのですね。

●ペン書きのてがみ

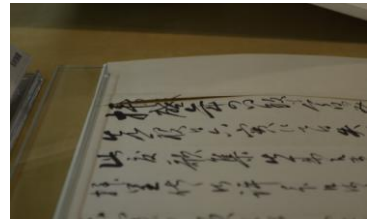
楚人冠が生きた時代は、手紙を書く道具やその言葉が変化していた時代でした。この写真は、村川堅固の手紙です。“MURAKAWA”と書いてあるのが、わかりますでしょうか？この便箋は、名入りのものです。文体も、「です・ます」調でしたが、現代で



は使用しない敬称などを添えており、時代を感じさせる内容も見受けられます。

●毛筆のてがみ

佐佐木信綱の手紙は、この写真のように少し浮いているのが特徴です。これは、巻紙の和紙



を糊で継ぎ足して使用した跡になります。継ぎ足しをしているのは、最初の6～7cmほどです。このことから、紙を大事に使っていた様子がわかります。そのほか、徳富蘇峰の手紙では、村川と同じく名入りの便箋を使っており、手製の住所印もありました。毛筆の手紙である、この2点は、江戸時代以来の「候文」で書かれているのが特徴です。

●時代を映すてがみ

“てがみ”は、時に時代を映す存在でもありました。貴重な森を伐採する明治政府の神社合祀政策の実態を、南方熊楠は手紙で訴えました。

また、今回は大逆事件で処刑された管野須賀子が書いた針文字も展示しています。この手紙は幸徳秋水の無実を訴え送ったものです。明治43年当時、刑事訴訟法では、弁護士との接見も、手紙を出すことも禁じられていました。時代を反映した貴重な資料です。

“てがみ”は、今でこそ書く機会が少ないですが、当時は、言葉を伝える大切な道具だったのですね。改めて、手紙の大切さを感じることができました。(*^_^*)

連絡・意見交換など

●庭園だより紹介

季節の花や植物がだんだんと春に向けて、動き出しています。

●景観あびこの記事について

・第59号において、遠藤さんの記事が掲載されました。とても良い内容です。

ぜひ、ご一読ください。新館に置いてあります。

●千葉県観光ボランティアガイドについて

・2月27日(木)に、市川市にて「ベイ・東葛エリア交流会」を開催します。参加希望の方は、ご連絡ください。

●当日のシフト調整について

・急な用事や突発的な出来事（インフルエンザや今回のような大雪など）が、発生した場合、連絡がすぐに無理な場合（特に土日祝など）は、自己判断をお願いします。重ねて、その場合は後日でもよいので、お休みになった旨、教育委員会の方へ連絡を入れてください。

・予めシフト調整が必要な状況がわかった場合は、今までと同様にお早目のご連絡をお願いします。

●ひなのまつりに関して

・2月18日(火)～3月9日(日)まで、「ひなのまつり」を開催します。（2月17日(月)は、みなさんのご協力もあり、スムーズに準備を行うことができました。ありがとうございました！）

・また、2月8日(土)、2月11日(祝・火)、2月12日(水)は、開催前のイベントとして、「おひなさまを作ろう!」、「ひなづくり手縫い教室」を実施しました。

※大雪のため、2月8日(土)午後のイベントである「ひな手縫い教室」2回目は、15日(土)午前9時～12時に振替となりましたが、再度の大雪の影響で、22日(土)午前9時～12時へ変更となりました。お時間がある方はぜひご見学ください。

「おひなさまを作ろう！」

2月8日(土)、11日(祝・火)に「ひなのまつり」イベントとして、「おひなさまを作ろう！」を開催しました。あいにく雪の日もありましたが、親子8組(うち子ども9人)のお客様にご来荘していただきました。



母屋から眺める白い幻想的な空間は、味わい深くとても印象的でした。子どもたちも、思い思いの

おひなさまを作って大満足！それぞれの、ひなまつりがやってきたようでした。

「ひな手縫い教室」

2月12日(水)午後1時より、もう一つのプレイベントである「ひな手縫い教室」が実施されました！



当日は、雪での振替もあり、12人のご参加をいただきまして、大盛況のうちに終わりました。講師は、もちろん鷺見さんです。

つるしひなは、一つ一つ、作り手によってその人形の表情を変化させます。みなさんとても習熟が早く、最初こそ時間がかかっていましたが、手つき、感覚を持ち合わせたときの早さは言うまでもありませんでした。当日は、1体を完成させる予定が、中には2体完成させてしまう方も！(^_^)



ご参加された方々の、各々異なった裁縫道具を見ているだけでも、編集Tは楽しかったです。

参加者のみなさんが、旧村川別荘の雰囲気、空間を存分に楽しんでつるしひなを制作されていました。

準備から本番まで、鷺見さんのご協力があったからこそです。本当にありがとうございました。

1月の来荘者数



平成26年1月の来荘者数は、315人でした！

平成25年1月 277人

平成24年1月 0人(工事期間中のため)

平成23年1月 176人

寒い季節にもかかわらず、来荘者は年々増えてきています。今月は、「ひなのまつり」もはじまり、旧村川別荘も盛り上がること間違いなしです。大勢のお客様にご来荘いただければと思います。＼(^o^)/

次回の月例会は・・・

次回の月例会は3月1日(土)9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

きっともう大雪は降らないはずですが…。みなさま、雪かきで腰などを痛めぬよう、くれぐれもお気をつけください。



今回は、少しでも春の訪れを迎える月例会となれば嬉しいです。